

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノ DDS  
の創成」

キックオフシンポジウム実施報告書

日時：平成 25 年 10 月 24 日（木）13:30～17:30

場所：京都薬科大学 愛学ホール

参加者数：165 名（職員：42 名、学生・大学院生 123 名）

プログラム

=====

<開会の挨拶>

乾 賢一（京都薬科大学長）

<プロジェクトの概要について>

小暮健太郎（薬品物理化学分野・教授）

<特別講演（1）>

「機能性ナノ粒子の製剤設計 Functional Engineered Nano-sized Particles」尾関哲也教  
授（名古屋市立大学大学院薬学研究科 薬物送達学分野・教授）



<一般講演（1）「疾患微小環境の特異的特性の探索」>

「環境応答性インテリジェントナノ DDS を応用した消化管傷害の少ない抗炎症薬の開発」  
加藤伸一（薬物治療学分野・教授）

「神経変性疾患脳における微小環境変化の解析」

北村佳久（病態生理学分野・准教授）

「緑膿菌トランスロケーション機構の解明から標的指向性 DDS へ」

後藤直正（微生物・感染制御学分野・教授）

「難治性気管支喘息の肺における微小環境変化とこれを制御する治療方法の開発」

奈邊 健（薬理学分野・准教授）

「インテリジェントナノ DDS 構築のための腫瘍微小環境の解析」

濱 進（薬品物理学分野・講師）

<特別講演（2）>

「腫瘍内微小環境の能動的制御に基づく DDS の開発」

石田竜弘（徳島大学大学院 HBS 研究部薬物動態制御学分野・准教授）



<一般演題（2）「微小環境応答性インテリジェントナノ DDS の開発」>

「薬物送達を目的とした脂質ナノエマルジョンの開発とその体内動態研究における  
19F-NMR の応用」

武上 茂彦（薬品分析学分野・准教授）

「白金ナノ粒子をベースとした疾患環境応答型ナノ DDS の開発」

草森浩輔（薬剤学分野・助教）

<一般演題（3）「疾患微小環境におけるナノ DDS の機能性評価」>

「B細胞性リンパ腫を標的とした抗腫瘍薬開発：インテリジェントナノ DDS の活用」

藤室雅弘（細胞生物学分野・教授）

「癌化学療法における抗癌剤の適正使用を目指して」

西口工司（臨床薬学分野・教授）

「熱ショックタンパク質のがんへの関与と薬物送達戦略における利用」

齊藤洋平（生化学分野・助教）

「有害事象を回避するための DDS」

西田健太郎（衛生化学分野・助教）

=====

本キックオフシンポジウムは、本年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択された「生体内の微小環境情報に基づいた物性制御による環境応答型インテリジェントナノ DDS の創成」（以下「インテリジェントナノ DDS」）に参画する全ての研究者が会して、プロジェクトの全体像の把握を目的とし、さらにプロジェクト内共同研究の契機となることを期待して企画されたものである。また、本プロジェクトに学外研究者としてご



参画頂いている名古屋市立大学の尾関哲也教授と徳島大学の石田竜弘准教授をお招きし、特別講演を行っていただいた。両先生はいずれも薬剤学・DDS が専門であるため、学内研究者にとってはあまり馴染みの無い内容であったにもかかわらず、参加者は興味深く聴講していた。また、若手研究者を含む学内 11 分野の教員にも、各々の研究とプロジェクトにおける役割および貢献できることを発表していただいた。

日頃、研究領域の異なる学内教員の研究発表を聞く機会がなかったため、とても新鮮であり、興味深いものであった。本プロジェクトは、「病態の微小環境」をキーワードに、異なる専門領域の研究者が集まって構成されているものである。そのため、当初は他領域の発表に対して、興味を抱きにくいのではないかと危惧したが、微小環境というキーワードを基点としたことで、多くのプロジェクトメンバーが発表内容に興味を持つことができた。実際、活発な質疑応答が行われたため、予定時間をオーバーしてしまうほどであった。また、大勢の学生・大学院生にも参加していただけたことから、本学の研究面におけるアクティビティーの高さを感じてもらえたのではないかと考えている。本プロジェクトを契機として、学内・学外共同研究が活性化されるとともに、次代を担う若手研究者の育成に繋がることを期待している。今後、定期的にプロジェクト内での発表会を行うことで、今回のキックオフシンポジウムで示したアクティビティーを維持できるよう尽力していきたい。

研究代表者：小暮健太郎